

9月 もりぴただより



2024.9.13
放課後等
デイサービス
もりぴた

楽しい夏休みが終わり、ひつじ達も積丹町へ帰っていきました。こども達もスタッフもさみしい思いはありつつも、出会いに別れはつきものです。物事には別れや終わりがあるからこそ、大切にしたいと思えるのではないのでしょうか。そんな別れの季節、秋の始まりです。

夏の思い出いっぱい

ひつじや友達とともに、時には一人で過ごした、それぞれの長い夏休み。思い出をいっぱいに残して、またひとつ季節が進みます。特別なようで当たり前の日々が続きます。



それぞれに時間を過ごしたひつじ。
ただ居てくれるということの有り難さ。



今年もシフト多めで出勤
中！カナチヨロ先生。



それぞれ計画して回った動物園。
オオカミ大きいなあ…



定山溪の森にて。
大きなトドマツ抱えられない！



川で生き物探し、その名も"ガサガサ"
いっぱい生き物いたね。



今年のもりぴた畑は大豊作！
毎日収穫して、つまむ。



登録児童数：25人・スタッフ：9人（2024.9.1現在）

コラム

子ども達にとっては短く、大人たちにとっては長かった夏休みが終わりました。目まぐるしい日々を追われ、しれっとこの「もりぴただより」8月号がお休みだったことは内緒です（申し訳ありません。）とはいえ、できたらいいことは、できたらいい、できなくてもいい、私自信がそんなスタンスでいることも重要なのではと、自分に言い聞かせながら今たよりをまとめております。

さて私の話で恐縮ですが、3ヶ月に一回程度、北海道新聞朝刊「朝の食卓」という欄にてコラムを掲載させていただいています。7月に掲載いただいたコラム内容をこちらでも紹介させていただこうと思います。

--「この木は生きていますか？」-----

樹木医の私には「この木は生きていますか」との質問がよく投げかけられる。私はいつも「葉が一枚でもあれば生きているし、葉がなければ死んでいるかもしれません」と答えている。

人間や動物が相手ならば、こんなやりとりは少ないだろう。人間は体の調子を言葉で伝えることが多いだろうし、動物は呼吸や心臓の鼓動で判断できる。一方、木は話さず、動かず、呼吸を感じ取ることも難しい。前提の知識がなければ、コミュニケーションはおろか、生死すら判断がつかない生き物になっている。

先日、あるこども園で園児たちに、木を前にして同じ質問を投げかけた。けれど、そもそも木に生死があることが分からないようだった。その日は園児たちと木で遊んだり、木の話をしたりしたが、関心を向けられることなく終わった気がした。

一カ月後に同じ園に行った。園児たちは木を生き物として接してきたのだろうか。前回とは全く違う反応だ。ある園児は「これは木の赤ちゃんだね」と話しかけてくる。何かを理解しようとする時に、単純に触れ、共に時間を過ごす体験のなんと大きいことか。

相手とコミュニケーションし、理解したいと思う時は、まずは知ること、共に時間を過ごすこと。なんて当たり前のことを、また木を通して思う。

単純に触れ、時間をともに過ごすことの大きさを、もりぴたでも日頃から感じます。そんな時間や空間をこどもでも作っていききたいものです。（管理者 崎川）



【新スタッフのお知らせ】

こんにちは！新しく入ったスタッフの栗原優里菜(くりはらゆりな)です。自然遊びが大好きで、子どもたちと虫探しをしたり、外遊びをしたりしながら、子どもたちの成長を見守っていかれたらと思っています♪これからどうぞよろしくお願いたします。（栗原）

お知らせ

【防寒について】

秋になり、日中はまだ暑いですが、夕方以降はずいぶん肌寒くなってきました。お子様には汗で冷えぬようタオルや着替え、夕方着るための長袖や防寒着等の上着をご持参させていただけたらと思います。

9月の行事

- 14日 もりぴたcafe
- 20日 虐待防止委員会
衛生管理委員会

9月 もりぴただより（裏面）

